

2008年度教養文化研究所第2回講演会報告

——ジョン・チャヌ バイオリンとトークの夕べ——

教養文化研究所長 秋山洋子

実施日時：11月19日（水） 17：00～19：00

場 所：本学第2講義棟15階ホール

本年度第2回の講演会は、いつもとは趣向を変えて、バイオリン奏者ジョン・チャヌ（丁讃宇）氏を迎え、トークコンサートという形で開催した。

ジョン・チャヌ氏は、1950年に岡山県で生まれた。5歳からバイオリンを始め、桐朋学園付属高校から同大学に入学、1969年にパリ国立高等音楽院に留学した。同大学院修了後は、韓国国立交響楽団、東京交響楽団などのコンサートマスターを務め、1988年から10年間にわたって韓国延世大学教授として後進の指導にあたるとともに、クモアシアナ弦楽四重奏団のメンバーとして世界各地で演奏活動をおこなひ、2000年以後は活動の拠点を日本に移して活動されている。

韓国人として日本に生まれ育ったジョン氏は、日本と韓国の友好、朝鮮半島の統一、世界平和への願いをつよく持ち、演奏活動のテーマとして“愛／平和／命”をうたっている。たとえば、2000年には朝鮮半島で初めて実現した南北首脳会談を記念したユニティコンサート、2001年3月にはJR新大久保駅の事故で命を落とした李秀賢、関根史郎さんを悼むコンサート、同8月には広島と長崎で原爆犠牲者追悼コンサートなどを開催、また、教会や病院を舞台にしたコンサートも多い。

本学でのコンサートは、現代文化学部のポール・マッカーシー教授とジョン氏との友情から実現した。演奏に先立って、マッカーシー教授は、「いまから30年前、アメリカの地方の大学で日本語を教えていたとき、韓国に半年留学する機会がありました。そのとき、コンサートの後のパーティで知り合いました。おたがいに、アメリカ人なのに日本語を話す、韓国人



なのに日本語を話す、ということで仲良くなり、それ以後おつきあいが続いています」と紹介の言葉をのべた。

映画「80日間世界一周」のテーマで始まったコンサートは、音楽による世界めぐりという趣向。ジョン氏は軽妙な語りでクラシックの名曲や映画の主題歌など、なじみの深い曲を紹介しながら、ロシア、東欧から西欧、タイタニックで大西洋を渡ってアメリカ大陸へと聴衆を導いた。

アメリカでは、氏が尊敬する二人の巨人に捧げるとして、ディズニー映画の名作「ピノキオ」の主題歌「星に願いを」と、チャップリンの名画「ライムライト」を演奏した。さらに南米では、映画「ガブリエルのオーボエ」の主題歌と、タンゴの名曲「ジェラシー」で盛り上げた。

「いま王子さまブームですが、ここにも3人目の王子がいます」と紹介された伴奏者の矢島吹渉樹氏は、桐朋学園の後輩で、ハンガリー国立リスト音楽院で学んだ新進のピアニスト。ヨーロッパ音楽の旅の途上で、本場仕込みのリスト「ラ・カンパネッラ」の独奏を披露する一幕もあった。

会場の第2講義棟15階ホールは、大学の日常とはまるで違う夢のような雰囲気に入れられ、あっという間に一時間半が過ぎてしまった。最後のアンコールでは日本にもどり、さだまさしの「秋桜（コスモス）」で音楽の旅はしめくくられた。

曲目リスト

1. 〈プロローグ〉	80日間世界一周	ヴィクター・ヤング
2. 〈ロシア〉	白鳥の湖	チャイコフスキー
3. 〈ポーランド〉	ノクターン	ショパン
4. 〈ドイツ〉	愛の歎び	マルティーニ
5. 〈イタリア〉	誰も寝てはならぬ (トゥーランドットより)	プッチーニ
6. 〈ハンガリー〉	ラ・カンパネッラ	フランツ・リスト
7. 〈イギリス〉	タイタニックのテーマ	ジェームス・ホーナー
8. 〈フランス〉	シェルブールの雨傘	ミシェル・ルグラン
9. 〈アメリカ〉	星に願いを (ピノキオより)	リー・ハーライン
10.	ライムライト	チャーリー・チャップリン
11. 〈南米〉	ガブリエルのオーボエ	エンリオ・モリコーネ
12.	ジェラシー	ヤコブ・ガーデ
13. 〈日本〉	秋桜 (コスモス)	さだ まさし